

研究・調査報告書

報告書番号	担当
74	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Myocardial infarction and alcohol consumption: a population-based case-control study. 心筋梗塞と飲酒：疫学的症例対照研究	
執筆者 Schroder H, Masabeu A, Marti MJ, Cols M, Lisbona JM, Romagosa C, Carion T, Vilert E, Marrugat J; REGICOR investigators.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Nutr Metab Cardiovasc Dis. 2007 Oct;17(8):609-15.	
キーワード アルコール、冠動脈疾患、ワイン、アルコール飲料の好み	
要 旨 背景・目的： 先進社会において冠動脈疾患 (CHD) は死の原因である。CHD と関連する変数を同定することや性格付けることは健康政策にとって重要な問題である。この研究の目的は、非致死的心筋梗塞と全飲酒量および消費するアルコール飲料の種類との関連を分析することである。個々人のビール、ワインまたはウィスキーかの好みは全アルコール飲料消費の内 80%以上占めたもので定められる。	
方法・結果： 疫学的症例対照研究 (244 人の症例と 1270 人の対照) が行われた。ゲロナの住民から無作為に選ばれた健康な男性が対照となり、一度心筋梗塞 (MI) を患った 25 から 74 歳の男性患者が症例として集められた。その前の一週間でのアルコール飲料の消費について記録された。飲酒と非致死的心筋梗塞との関連を決定するために多重ロジスティック回帰分析が用いられた。 一日当たり 30g までの全飲酒量は、生活習慣と心血管病危険因子を調整後、非致死的心筋梗塞リスクと逆相関を認めた (オッズ比 0.14、95%信頼区間 0.06-0.36)。ワイン、ビールおよびウィスキーの 20g までの飲酒は調整後の MI リスクを有意に減少させた。多量飲酒はリスクを減少させなかった。ウィスキーを好むのは非致死的心筋梗塞リスクを有意に増加させた ($P < 0.05$)。	